

2014年11月22日

内閣総理大臣
安倍晋三 様

辺野古への基地建設を許さない実行委員会
連絡先：東京都千代田区三崎町2-2-213-502
沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック気付
連絡先 TEL：090-3910-4140)

沖縄県の新知事も地元も「埋立て反対」 調査と建設工事は中止を

われわれは首都圏の市民団体など39団体で構成する沖縄・辺野古の新基地建設・埋立てに反対している協議・運動体です。本日、首相官邸前で抗議行動を行って知事選結果を確認、多数の人々で「辺野古埋立て反対」・普天間飛行場閉鎖・撤去を確認します。

去る11月16日の沖縄県知事選挙で、「辺野古基地建設反対」を公約にした翁長雄志氏が仲井真現知事に10万票の差をつけて初当選しました。

それにもかかわらずすぐさま政府・安倍政権は、「仲井真弘多知事が埋め立てを許可したので、手続きに基づいて粛々と進める」(菅官房長官)と言い、この選挙後にも「辺野古新基地建設の「事実上の埋め立て」となる、仮設栈橋に着手すると報道されています。長さは陸上部約30メートル、海上部約70メートルの計約100メートルで、砕石と金属製資材などを使うとしています。「仮設」という名目で、今現在、中断して終わっていないボーリング調査や工法の変更申請のために必要な知事承認などを無視して準備を進めています。事実、知事選後3日めから米軍キャンプ・シュワブで海上作業が再開。作業現場にはトレーラーが横付け、クレーン車がオレンジ色のオイルフェンスをつり上げて搬入し。浮栈橋の設置を強引に開始しています。

辺野古海上はもちろん、資材を搬入の入り口となる米軍キャンプ シュワブのゲート前でも緊迫し始めています。他方、キャンプ シュワブ内の隊舎などに使用されていた大量のアスベスト処理をめぐって紛糾が起きていました。周辺住民への説明会を開かず、ましてや安全性への疑問に具体的に答えることなく解体・処理を強行することには住民が反発を強め、同ゲートでの座り込みも始まっています。

県知事選投票日前日最後の演説で、仲井真派候補の車上から、「左翼に政権を渡していいのか」と叫んでいた人がいたそうです。翁長・新知事は「イデオロギーではなく、沖縄の誇りと豊かさ」を旗印にしています。

以下、総理に強く抗議・申入れをします。

1. 辺野古埋立てにかかわる調査・事業すべてを中止すべきです。これこそが現実的方法です。
2. 普天間飛行場は、閉鎖・返還すべきです。「辺野古移設」をかざしていつまでも普天間を固定化させ、継続使用するのとは卑怯です。
3. 全国の自治体に沖縄の現状について意見を聞くなど、沖縄での基地重圧についての具体的な打開策を検討・実施すべきです。

(以上)